

●事例紹介●

# 短期大学における 自立創造力育成プログラム

松本 昌雄

(国際学院埼玉短期大学副学長・教授)

国際学院埼玉短期大学が、開学以来展開してきた「人づくり教育」の教育プログラムの一つの取組が、一六年度文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されて誠に喜ばしい限りである。

一六年度に本学が応募した取組は、「主として総合的取組」の分野で、取組の名称は「短期大学における自立創造力育成プログラム」であるが、本取組について紹介したい。

国際学院埼玉短期大学は、幼児保育学科、健康栄養学科の二学科と、二年制課程専攻科（幼児保育専攻、健康栄養専攻）からなる短期大学であり、本年、創立四二周年を迎えている。

建学の精神に「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を掲げ、教育方針に「礼をつくし、場を清め、時を守る」の実践を

謳い、教養と専門的知識・技術を身につけた人間性豊かな幼児教育者及び栄養士等、有為な社会人の育成を行っている。これら専門教育による資格取得を目的とした実践的教育に加えて、凡事の徹底（あたり前のことがあたり前である）が本学の「人づくり教育」の柱となっている。

「人づくり教育」は、将来、社会人・職業人として自立していけるよう、集団生活に必要な規範意識、自主性、協調性、責任感など幅広い能力を育み、人間力の向上に力を注いでいる。そのために、学生全員参加の海外研修、卒業研究発表会、五峯祭（大学祭）、体験型総合演習、特別講義（地域人材による道徳や人生講話）など多様な教育プログラムを全学的に展開している。一方、専門教育においては、社会的ニーズに対応した実践的な専門知識と技術を併せも

つ人材の育成に努めている。こうした教育目標を達成するために自己点検・評価、FDを通じてテュートリアル教育の展開・カリキュラムとシラバスの改善・学生による授業評価の他SD等教育活動の改革・改善に取り組んでいる。

これら建学の精神・教育方針の具現化にかかわる多様な教育プログラムのうち、「五峯祭（本学の大学祭の名称で、教育研究・学習成果を発表する場）」を、「短期大学における自立創造力育成プログラム」の取組の名称で文部科学省の平成一六年度特色G Pで応募し、採択された。

## 自立創造力育成プログラムの概要

本取組は、建学の精神・教育方針の具現化にかかわるプログラムの一環で、正課教育で学んだ専門知識と技術を活用して、全学生がそれぞれの研究グループを組織して、協力し合いながら研究的活動、創作活動（身体表現、造形表現、音楽表現等）、地域社会との連携活動（幼児絵画展、味彩コンテストと称する健康づくりアイデア料理コンテスト、地産地消促進活動）および、自主的活動を行って、その成果を五峯祭に発表するものである。この取組の特色は、単なる一過性のイベントではなく、全学生・教職員が一体となつての教育研究・学習成果を発表する場であり、またその成果を通じて地域社会の幼児教育や健康づくり教育・

食育の振興に貢献する場としても位置づけられていることである。

本取組は、各領域ごとそれぞれ左記の活動が展開される過程で、学生の自立創造力、教育実践力や人間力が育成される。

### 〔研究的活動〕

健康栄養学科の全学生が、いずれかの研究室に所属し、研究テーマ別にグループを組織する。学生は指導教員のもとで自主的に文献などから目標を設定し、検討、改善、評価を行いながら研究を進め、健康と栄養に関する発表作品を創出する。

### 〔創作活動〕

幼児保育学科の全学生が、指導教員の助言を得て、平素の学習で得た知識・技術を駆使して幼児を対象とした活動内容を企画し、発表する。これらの実践を通して幼児の心を育み、さらに幼児とその保護者の行動に適切に対応することを学ぶ。

### 〔地域社会との連携活動〕

県内の幼稚園、保育園の園児を対象とした幼児絵画展並びに地域住民が応募する味彩コンテスト、さらに本学の発

声法公開講座を受講した女性によるコーラス発表会などを開催。幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方たちに食と健康、幼児期の人間形成などの学習内容を提供している。

〔自主的活動〕

音楽部、コーラス部、手話部等が、日常の活動成果を発表する。クラブ活動を通して技術の向上および学生・卒業生・地域住民との交流による人間関係形成力の向上を図る。

〔取組の実施プロセス〕

研究的活動領域では、各研究室ごとに、発表する研究テーマを指導教員と相談しながら選定し、研究計画を立て、それに基づいて放課後や夏・冬期休暇を利用して研究を実施する。そして定期的に進捗状況を報告しながら指導を受け、研究成果をまとめて完成させる。

一方、創作活動領域では、幼児保育学科の学生が各クラス毎に分かれて、これまで様々な教科や実習を通して学んだ専門知識と技術をもとに、クラス全員で幼児を対象としたテーマを選定する。続いて、作業計画を立て、これに基づいて放課後等を利用してクラス全員体制で作業し、発表作品を創出する。

幼児絵画展は、幼稚園児、保育園児だけを対象に作品募

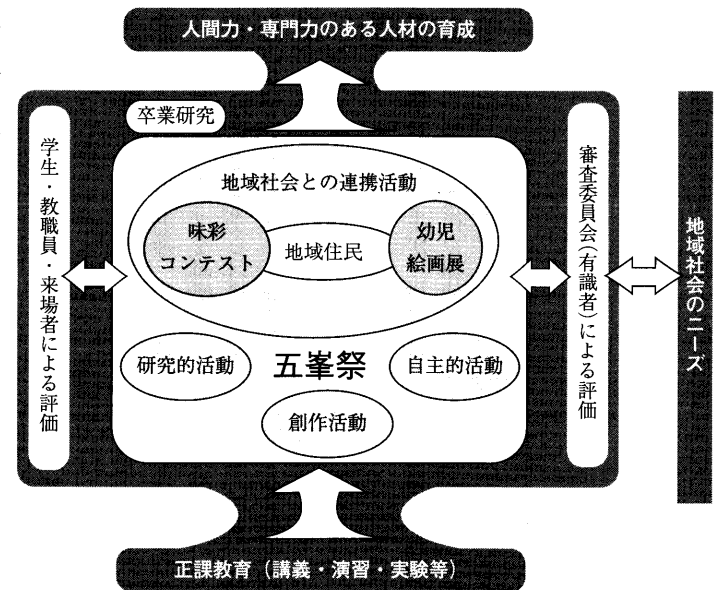
高め、県内幼児教育の振興に資することを目的に実施している。毎年八〇園近くの幼稚園と保育園から、年少・年中・年長別に七〇〇点以上の作品応募があり、加えて提携校であるオーストラリアのニューサウスウェールズ州立マツコリー大学を通じて当地の幼稚園児の絵画が送付されてくる。これらを五峯祭会場において展示し、広く地域の方々の鑑賞に供している。

味彩コンテストは、埼玉県内の特産物を利用して、栄養のバランスのとれた献立のアイデアを募集するとともに、素晴らしい作品を地域住民に情報提供し、食生活改善と健康づくりに寄与することを目的に実施する企画で、本年度で二―三回目を迎える。

毎年、地域住民等から三〇〇点以上の作品応募があり、優秀作品は五峯祭において、レストランのメニューに盛り込むとともに、レシビを配付し情報提供を行っている。

幼児絵画展及び味彩コンテストの各審査委員会において選考された優秀作品については、学長賞、埼玉県知事賞、埼玉県教育委員会教育長賞をはじめ各協力施設・団体（全埼玉私立幼稚園連合会、埼玉県保育協議会、埼玉県国公立幼稚園長会、埼玉県栄養士会、NHKさいたま放送局、埼玉新聞社、テレビ埼玉等）から各賞が授賞され、幼児の表現活動や地域住民の健康づくり料理への興味・関心を高め、創作意欲のさらなる向上を期して奨励されている。な

本取組の概念図



お、審査委員会は、斯界の権威、関連団体・協会会長、地域の識者、他大学教授および本学教員などの委員から成っている。

一方、研究的活動・創作活動・地域社会との連携活動、自主的活動の成果については、教員と五峯祭委員会委員で組織される委員会の評価と、アンケート方式による来場者の評価を総合して、優秀作品が選考される。これらの作品は、学長賞や奨励賞として表彰され、学生の研究・学習意欲の向上が図られている。五峯祭は、毎年一月に二日間キャンパスを開放して開催しており、この二日間に幼児から高齢者までの方々五〇〇人以上が来場している。そして来場者に大好評で人数も年々増加している。

取組の有効性と学習上の利益

全国的に学力低下や社会性の不足、モラルの低下、創造的思考力の低下等が指摘され、人間力、想像力をもった人材が求められている。このような資質と能力をもった幼児教育者や栄養士などの専門的職業人を養成するのが、本学の教育理念である。これを目標に開学以来、人間力を高める人づくり教育を基本に、専門分野の知識と技術を習得する実践的教育をしながら教育の改革改善に努めてきた。本取組は、社会性の涵養に資する取組であり、まさに建学の

理念の具現化に他ならない。

目標とした教育効果は、正課教育で習得した知識・技術を活用して共同研究・創作を行い、その成果を公開発表・評価するという全プロセスを通して、専門力と人間力を育成することであった。

五峯祭に関する活動は、まさに総合学習として実施されるもので、学生の自主性、創造性を育み、学生相互の協力によって社会性の育成にも効果的なものである。

全学生に対するアンケート調査によると、この取組を通して人間関係を築いていく能力、学習意欲、問題解決能力、実践力、表現力、協調性、社会性が向上したという回答が多いことから大きな教育効果が確認できる。

本取組は、豊かな人間力と想像力をもつ職業人になるための動機付け活動であるから、その結果は就職率に表われる。

本学の卒業生は、社会から高く評価され、開学以来、圧倒的に高い就職率（内、九〇%以上が専門職に就職）に繋がっている。これらは、本学の人づくり教育の成果に他ならない。また、この取組を通して、自主的に物事を考え、創造的に課題を解決する能力をはじめ、発表能力、行動力を獲得し、物事に意欲的に取り組む姿勢が身につくようになった。すなわち、従来の知識偏重の受動型学習から能動型学習への動機づけとなり、学生の問題発見・解決能力の

向上に繋がっている。また、集団組織の一員としての自覚を深め、自主性、協調性、責任感、社会性など人間力が向上し、学生の社会適応力が強化されている。

#### 将来展望

五峯祭は、学生の知識・理解の深化並びに人格的成長に大きな教育効果をあげている一方、地域住民から高い関心と評価が寄せられている。この取組の内容をさらに充実発展させるために、今後、正課および課外教育にテュートリアル教育を導入し、専門教育の充実・活性化を図る必要がある。また、自己学習能力をさらに向上させていくと同時に地域社会に貢献する教育研究・学習成果の創出を推進していくかなければならない。

今後、豊かな人間性と専門力を養う教育を目標に、これまで実践してきた多様な特色ある教育を改革・改善しながら、不断の自己点検・評価を実施するとともに、FD活動等を推進し、教職員と学生の資質能力の向上を図る。さらに、本学は地域社会の知の核として、また地域社会における知識情報の発信機関として、地域のニーズに添って地域住民に情報を提供し、教育研究の充実発展に寄与しながら、本学の使命並びに社会的責任を果たしていく。